

# 手をつなごう2007

平成20年1月21日  
岡山県立東備養護学校  
支援部だよりNO. 28

教育における「保護者との連携・協力」の重要性については今更言うまでもないことでしょう。しかしその難しさについても巡回相談の中でよく話題になります。本校が今年度5月に実施したニーズ調査でも「特別支援教育について先生方が最も困っておられること」として「保護者との連携」が多く挙げられていました。特に年齢が低い段階で多く、まずは保護者との良好な関係をつくるための支援が必要とされます。そこで、大阪教育大学の大沼直樹教授の著書より保護者との信頼関係を培うための視点についてご紹介します。



## 保護者との信頼関係を培うための 6つの視点

保護者との信頼関係をいかにつくるか  
～風信「ピグマリオン」からのメッセージ～  
大沼直樹著 明治図書 より

### 保護者の苦しみや悩みについて知る 保護者の立場の尊重

保護者が味わってきたであろう過去の様々な苦悩に気づくことが何より大切。保護者は少なくとも自分よりも人生について幅広く、深く知り尽くしている。それを認め、保護者の立場を尊重することから始める。

### 保護者の身になって考える 保護者への共感的姿勢

もしも自分がその子の親であったらどのように考え、行動するだろうか。相手に対する気遣い・心遣い、そして保護者と共感できるような柔らかい心を忘れないようにしたい。

### さりげなく語りかける 保護者との契機づくり

まずはさりげなく、気さくな「挨拶」による語りかけを繰り返すことから。ホットでレアな子どもの情報を知るために。

### 保護者の声を最後まで聞く 保護者の主体性の尊重と保障

保護者の苦悩は並大抵でない場合が多く、誰にも言いたくないと思う反面、分かって欲しいという気持ちもある。そこで、とことん保護者の声に耳を傾ける。保護者の声にじっと耳を傾け、ひたすら最後まで聴く過程において、保護者には課題解決の方向性の糸口が見えてくるかも知れない。徹底して話を聴くことが保護者の重荷を軽減し、信頼関係を築く基礎となる。

### 保護者を絶対に非難しない 保護者同士の連携の促進

保護者が集まって雑談している際にその場に参加していない保護者の話題になったときはその保護者の良い点を話す。批判をするより長所を探し出すほうが人間関係はうまくいく。それによって保護者同士の連携・協力体制も強化される。子どもに仲良しになれと言う前に、教師や保護者同士が「仲良く」ならなければならない。

### 子どもの変容を示す 実践的事実の創造

子どもが変容した（成長・発達）という事実に触れることによって保護者が変わる。そして保護者の信頼を得ることになる。相乗的に子どもがさらに成長・発達していく。



この本の最も核心をなす部分として、著者が15年間ほぼ毎日のように書き綴り、様々な情報を保護者に届け続けた学級通信「風信『ピグマリオン』」の一部が紹介されています。上記の「子どもの変容を示す 実践的事実の創造」に焦点が当てられた実践記録です。

保護者との連携を考えると、多くのヒントが得られるのではないのでしょうか。